

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490300106		
法人名	学校法人 鈴鹿文化学園		
事業所名	グループホーム 愛すみよし苑		
所在地	鈴鹿市住吉一丁目23番8号		
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 2日	評価結果市町提出日	平成 25 年 11 月 12 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490300106-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 10 月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の静かな環境に恵まれている。公園や学校、幼稚園、商業施設、病院には利用者が歩いて行ける程の距離にある。地域の方々が花や野菜を届けて頂ける環境にある。当苑の理念でもあるが、利用者が家庭的な雰囲気の中で馴染みの人間関係や環境を維持しながら、その人らしく生活していく事を支援していきます。環境を整えて、穏やかな落ち着いた生活を営んで頂けるように、接し方や言葉かけに配慮しながら、利用者の人権と尊厳を最大限に尊重しています。又隣接する医療福祉専門学校の介護福祉科の生徒やボランティアの訪問もあり、利用者様と外部の方々との交流も頻回にあります

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者とその家族、スタッフに全幅の信頼ある総務部長、管理者の下、利用者一人ひとりの人格を尊重しながら、理念とともに『家庭的な雰囲気(親子孫の関係)のなか 人間愛 笑顔で和やか 優しい気持ちで声掛け』をモットーに、スタッフは自然と和やかな表情で笑顔と優しい会話が実践されている。スタッフも仕事(利用者の支援)に来るのが楽しくて、1日の勤めがアツと云う間に過ぎてしまうと話されているように、家族からの評判どおり、全ての利用者に活気があり表情も豊かで、利用者の安心して暮らしている様子が伺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し毎日の朝礼時には全員が唱和している。理念が実践につながるように、会議で話し合ったり、朝礼で施設長や管理者から話をしている。	毎日朝礼で唱和されている理念については、スタッフは日々利用者に対し常に尊厳と感謝の気持ちを大切にされ、和やかな表情で笑顔と優しい会話が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地区の公民館行事の催しにも積極的に参加させていただいている。散歩に出ると花を切って下さる方があったり、挨拶を交わしていただける。地域の中、高校生の職場体験を受け入れている。	地区の公民館行事の参加はもちろん、近隣の方々とは野菜や花の差し入れが頻繁にある等、日常的に付き合いがされている。音楽療法・カラオケ・琴演奏等、多くのボランティア訪問も多く地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の相談もある。日常的に見学をうけている。母体の学校の協力もあり認知症サポーター研修を受講している。職員の向上心もあり、認知症理解は全員ができている。職員が地域で話をする事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催して、話し合いや意見の交換を行っている。会議の内容は議事録に残し、意見や提案は全体会議にあげてサービスの向上にいかしている。	自治会長・地域包括・民生委員・家族等のメンバーで2ヶ月毎に開催され、事業所の報告と合わせ出席者から多くの意見や提案が交わされている。中でも火災等の災害時に周囲の協力を得るために、自治会の協力で地域の方に回覧で周知してもらった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時広域連合との連絡を行い指導をうけている。地域の方の相談をうけて包括支援センターにつなげたりしている。運営推進委員会には包括支援センター職員、元介護相談員に参加して頂いている	行政(地域包括)とは、運営推進会議の際に相談や情報交換している。日常的には鈴鹿亀山広域連合と運営上の相談や情報交換等常に行い、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を組織しており、身体拘束だけでなく、精神的な拘束、高齢者虐待等についても会議で議論がなされており、独自の勉強会や外部の勉強会にも積極的に参加している。	恒常的に独自の勉強会や外部の研修会の機会があり、管理者・スタッフとも身体拘束の弊害についてはよく理解されている。身体は勿論、特に言葉かけにおいても拘束をしないケアに心掛け実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされない様に注意を払い防止に努めている。朝礼でも施設長や管理者から話をしている。職員も虐待があっては、ならないと認識している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度についての知識の必要性を感じ社会福祉協議会や包括支援センターの講演会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族の思いを十分に聞き、契約時に説明を行い理解して納得して頂いて契約を交わしている。また不安や疑問に対しては、常に回答出来るように、受付窓口をもうけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談、苦情の窓口を明記し口頭において説明をおこなっている。又管理者が家族の面会時、サービス計画書の作成時の聞き取り、モニタリングの場において利用者や家族の要望意見をきいている。運営に反映している。	利用者・家族とは常に笑顔で接し、何でも話しやすい雰囲気づくりに心掛け、家族の面会時・3ヶ月毎の介護計画見直し時のモニタリングの場で意見要望を聞き、介護計画の見直しや運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時あるいは、施設長との面談や定期的な会議、朝礼時の場で職員の意見や提案を取り上げ、検討しよりよい運営につなげていく体制も出来て、反映させている。	総務部長・管理者ともスタッフの一員としてケアの場にいることで、気づきや感じている事は何時でも話し合える環境にある。スタッフからはレクリエーションについて多くのアイディアが出されケアの場で活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事上の悩み等が蓄積してモチベーションが下がらない様に施設長、管理者が話を聞く等の対応をしている。職員が資格を取得しやすいように配慮し、取得した時は各自の給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外での研修会へも職員の希望に応じて参加出来るように各種研修会の案内を掲示し声をかけている。母体の学校介護福祉科の教師に依頼し勉強会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研究会参加を奨励している。地域密着連絡協議会、グループホーム協会にも入会している。同業者との情報交換や施設見学も行っている。「良い」と思った事は会議に提案し職員で検討して実践している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に不安や要望を聞き取る。生活歴職業歴病歴、生活リズム等を利用者や家族に聞きフェイスシートやセンター方式に記入したり、家族に記入して頂いている。「馴染み」の環境を継続でき「安心」して生活できる職員で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族にセンター方式の記入をおねがいしている。困り事、不安、要望等フェイスシート基本情報を家族に確認して職員で共有している。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に施設長、管理者が面談し自施設で対応できる事と出来ない事を説明し、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を一人の人間として尊重し、また人生の先輩であるという意識をもって日常生活の中で教えて頂いたり、役割を持って頂き支えあう関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に参加できる行事を行ったり、職員が面会時や電話で、情報交換をしたり、相談させて頂いて本人を支える為の協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人に訪ねて頂いたり、ご家族の協力の元、田畑や馴染みの場所や自宅に行っている。法事や墓参りなど、馴染みの方と会える場所に行かれる。	馴染みの方(家族・友人・知人等)が、何時でも気軽に面会できるように心掛けています。また、家族の協力を得ながら盆や正月の一時帰宅・墓参り・法事に出掛ける等、馴染みの関係を大切にした支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が馴染みの関係になっており、家族も利用者に話かけられる。居室におられるよりもホールで談話される事も多い。他者を気遣いながら、支えあっている様子がうかがえる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に戻られた方はない。転所された方、亡くなられた家族との交流はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中やセンター方式を活用し希望や意向の把握に努めている。本人からの聞き取りが困難な時は家族と共に聞き取り、本人の意向に沿うようにつとめている。	1人ひとりの思いや意向は、日々の会話から聞き入れ、自ら言えない方については表情からや家族に相談しながら把握している。把握した事柄についてはセンター方式(私の姿と気持ちのシート等)に記録し、スタッフが共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を作成し職員で共有できている。面会時の家族との会話の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子をケース記録に細かく記録し、職員が共有する事で現状を把握している。把握できにくい方は24時間シートを1週間実施した事がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族、計画作成者とモニタリングを実施、利用者の担当職員はモニタリングとアセスメントを毎月実施記録し個人ファイルに残す。家族に読んで頂く事で現状に添った介護計画を作成している。医師、看護師、薬剤師にも相談をする事がある。	利用者毎の担当者で毎月モニタリングとアセスメントが行われ、3ヶ月毎に計画作成者とモニタリングを集約し全体会議で話し合い、家族にはケース記録を見て頂き意見を聞き、定期的には3ヶ月毎に計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の記録を個人ファイルに閉じ込み申し送りノートや朝礼で情報を職員が共有している。提案や工夫した事の相談連絡報告がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望は可能な限り対応できるようにしている。無理な場合は出来るように検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する学校の介護福祉科の先生、生徒、定期的な音楽ボランティアが来て喜怒哀楽が表現できる。社会生活が普通に送れる工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医やかかりつけ医の往診が月に2度ある。神経内科への受診時には家族に記録の要約を説明したり、家族の了解のもと、直接FAXで報告相談を実施している。	従来からのかかりつけ医、事業所の協力医とも月2回の往診と緊急時の対応が可能であり、適切な医療が受けられている。精神内科等の専門医療の受診の支援も、家族が行けない場合に事業所で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は併設の認知症ディサービスに週2日午後から、出勤している。当法人の医療福祉専門学校で常勤看護師にも相談出来る環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療を要する利用者には管理者や職員が毎日病院にでむき、病院関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族との聞き取りをしている。医療行為は出来ないが、主治医の指示の元家族を交えて看取りをした事がある。看取りの研修会にも参加している。	家族の希望もあり管理者は、重度化や終末期は出来るだけ支援したいと考えているが、スタッフの理解を含め、医療機関・スタッフとの話し合い等、事業所としての基本的な方針（看取り指針等）は今後の課題となっている。	将来においては、重度化や終末期の支援は欠かせないと考えられる事から、家族・医療機関・スタッフと充分話し合い、事業所としての一定の方向付けをして、関係者が共有される事が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応マニュアルは作成してある。急変時や事故発生時の連絡網はできている。特に夜勤者には急変時の本は読んでもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練消火訓練は実施している。自治会に協力をお願いしている。全体会議で防災テストを実施したり水コンロ食料医薬品を備蓄して職員に意識付けをしている。学校の関係者の協力体制はある。	年2回の防災訓練・避難訓練を計画し、夜間も想定した訓練が実施されている。併設のデイサービス事業所・隣接の母体法人（鈴鹿オフィスワーク専門学校）の協力体制、事業所の裏出口にホイッスル置かれてあり、緊急時に吹いて近所の方に知らせ協力を得る工夫がされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には誇りやプライバシーを損ねる事のないように十分注意をしている。日常的に朝礼で人権と尊厳をつたえている。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを守ることはケアの基本と意識し、何事にも笑顔で優しく接することに気を付け、特に言葉かけ・表情・態度で利用者の気持ちを害しないように心掛けている。	面会簿は全ての利用者を一つのファイルで管理しているが、個人情報の保護から利用者別・面会者別の様式を検討される事が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人が要望や希望を表現出来やすい環境を工夫している。本人の個別に合わせて自己決定が出来るように、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に意思決定をしていただいている。「強要」や「制止」をせずに利用者個人の能力希望に応じた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の方は定期的に理容師の出張サービスを受けている。家族の協力で美容院に通われるかたもいる。服装は本人に選んで頂いたり、職員と選んでいる。衣服の補修は職員がしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割として食事の下ごしらえ、台拭き食器拭きを配膳下膳をしている。楽しい食事の時間提供を心がけている。工夫しながら食欲のない方にはお好きな物を食べて頂く。おやつは職員の手作りの日も多い。行事食もある。	献立・食材は業者へ委託し、カロリー等栄養バランスの取れたものとなっている。五感を刺激するオープンキッチンでの調理や、後片付けは利用者も自発的にスタッフと一緒にしない談笑しながらの楽しい食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食記録している。職員に栄養士の有資格者がおり、配慮している。定期的に血液検査や健康診断を実施。麦茶、緑茶、OS-1、スポーツ飲料ようで水分確保に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後居室やホールの洗面台で実施。義歯も夜間は消毒している。歯磨きの習慣がなかった方が毎食後するようになり、家族が驚いておられた例があった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便通表を作成して、時間経過で記入している。入居以来布パンツの方が3人いる。いつまでも、トイレでの排泄や自立が出来るように支援する事の大切さを認識している。	利用者個々の排泄を便通表に記録と、日々寄り添うケアから排泄パターンを把握し、出来得る限りトイレでの自立排泄が出来るように支援している。夜間もポータブルトイレを用意し、自立排泄出来る等配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らずに排便できるように、食事や牛乳、ヨーグルトで工夫している。腹部のマッサージや運動で自然排便に取り組み結果をだしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応午前中が多いが、排泄後に「入りたい」との要望があれば、見守りのもと入浴して頂いている。他施設や自宅で入浴されなかった方が夜間や早朝に工夫したら、昼間の入浴ができるようになった。	一般浴槽・特殊浴槽が設備されている。体の状態に合わせ平均週3日回午前中の中の入浴となっているが、希望があれば午後や毎日の入浴も出来る支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心されるように、手持ちの人形を抱いたり、ベッドを使用されない方、毎日布団を片付けられている方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を入れている。薬の変更時時は申し送りノートに記入。特に観察記録を職員に促している。主治医や薬剤師、看護師にも、報告相談している。服薬チェック表を記録、与薬者が押印している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌う事が楽しみの方が多く自然に合唱にされたり、食事後下膳されそのまま食器洗いや食器拭きをされたり、拭き掃除の好きな方は毎日されている。家事は利用者、職員が助けあっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の面会も多く、気分転換に馴染みの場所へ行かれている。外出先にご家族が合流されることもある。散歩先の公園で地域の子供さんが寄ってきて下さる。地域の方と話す機会もある。近所の商業施設に買い物に出掛けたり、市役所等に用事がある時は一緒に行っている。	事業所の周辺には多様な施設があり、出来るだけ利用者の希望に添って、近くの公園に散歩やスーパーへの買い物、地域の行事などの外出、ドライブを兼ねての花見、玄関先での外気浴等、多くの外出支援がされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として、預っている。希望の品が購入できるように買い物に出ている。物盗られ妄想のかたもあり、現金の所持はされていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけれる方には使って頂いている。電話口に出られるようにはしている。難聴の方には取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	PEAP(認知症高齢者への環境支援指針)に基づき利用者が季節感を感じる花を飾ったり、笑顔の写真を飾っている。落ち着けるように配慮している。	共用空間は掃除がいきとどき、清潔できれいである。居間兼食堂は吹き抜けふうの天窓からの心地よい明るさと、季節の花が生けられ、季節毎に利用者とスタッフ合作の作品が飾られる等、居心地のよい居場所とを感じる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の突き当たりで座布団に座り談話していたり、ホールにソファを設置し寛いでいたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から「馴染みの物」「使いう慣れた物」を居室に入れている。ラジカセを置き本人の歌声のテープを家族の面会時に聞ける。本人の作品を飾り家族が季節事に作品をかえられる。	各居室とも清潔できれいである。居室内は基本はベッドであるが、利用者の希望で畳部屋も用意され、使い慣れた家電、お気に入りの利用者自作の壁掛けや家族の写真等が飾られていて、それぞれが落ち着いて過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを各所にとりつけている。「できる事」を探し工夫をして今まで出来た事を長く続けられるように自立支援をしている。		